

平成28年度  
一般1期入学試験問題

国語  
(教養学部)

注意事項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ① 氏名欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
  - ② 受験番号欄 受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
  - ③ 試験種別欄 一般1期にマークしなさい。
  - ④ 教科・科目欄 国語にマークしなさい。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

5. 問題用紙は、試験終了後持ち帰りなさい。

1 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

- (注)
- 1 ベートーヴェンの第五交響曲Ⅱベートーヴェンが作曲した交響曲のこと。日本では一般に「運命」という名称で知られる。
  - 2 銅版画Ⅱ銅版で印刷した絵画。
  - 3 石版画Ⅱ石版で印刷した絵画。
  - 4 ミケランジェロがシステイーナレイハイ堂の壁に描いた超大作Ⅱミケランジェロがフレスコで描いた「最後の審判」のこと。
  - 5 ショパンの夜想曲Ⅱ夜想曲(ノクターン)は、夜の気分を表す抒情的な楽曲。ショパンには夜想曲が全二一曲あるが、一般に「ショパンのノクターン」といえば、「夜想曲第二番変ホ長調」をさすことが多い。
  - 6 マーラーの夜の交響曲Ⅱマーラーが作曲した「交響曲第七番短調」のこと。副題に「夜の歌」とある。
  - 7 小林秀雄Ⅱ昭和の評論家。「モーツァルト」は昭和二一年に書かれた。
  - 8 S PレコードⅡ standard playing record のこと。演奏時間は片面で五分程度。
  - 9 弦楽五重奏曲第五番ニ長調Ⅱモーツァルトが晩年に作曲した曲。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) チヨウセン

1

- ① 嵐のゼンチヨウ
- ② はっとするほど美しいチヨウボウ
- ③ 相手からのチヨウハツには乗らない
- ④ チヨウヤク距離が伸びた

(ウ)

レイハイ

3

- ① ハイフ物を用意する
- ② ハイオクが取り壊される
- ③ 差別とハイジヨの論理
- ④ お寺のハイカン料

(オ)

ドウサツ

5

- ① 地場産業のクウドウ化が進む
- ② 日に焼けたシャクドウ色の裸身
- ③ ドウヨクな業ごう突つ張り
- ④ 与力よりきにつかえるドウシン

(イ)

コジ

2

- ① 深編み笠がきをかぶったコムソウ
- ② ゆらぐ終身コヨウ制度
- ③ 飛行機をカクノウコにしま入れる
- ④ コダイな宣伝を取り締まる

(エ)

カイム

4

- ① 王妃カイニンのニュース
- ② カイモク見当が付かない
- ③ 雲間から姿を現したチヨウカイ山
- ④ 邦楽のオンカイ

問2 空欄 a ) e に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- |   |       |          |            |           |          |
|---|-------|----------|------------|-----------|----------|
| ① | a 威圧的 | b 対照的に   | c ここを先途と   | d 人口に膾炙して | e 口に任せて  |
| ② | a 高踏的 | b 時間差で   | c 一も二もなく   | d 堰を切って   | e 逆手にとって |
| ③ | a 凱旋的 | b 軌を一にして | c 額面どおりに   | d 独り歩きして  | e 楯にとって  |
| ④ | a 悲観的 | b 奇を衒って  | c 判で押したように | d 雪崩を打って  | e 手玉にとって |

問3 傍線部A「一九六〇年前後のことだったと思います、次のような記事を雑誌で見たことがあります」とあるが、この「記事」を取り上げることで、筆者が述べようとしていることの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① コンサート・ホールの音楽はオリジナルだと信じられている状況であったにせよ、最初はオーケストラが演奏し、途中で録音された演奏に切り替えられたことを聴衆の誰も気づけなかったのは、音響メーカーが開発した音響技術の勝利であった。
- ② コンサート・ホールでは、オーケストラやスピーカーからの直接音だけでなく、反響した間接音も聴いているので、両者の違いは、いかな聴き巧者でも聴き分けることが困難であるからには、音響メーカーの技術力の勝利とは必ずしも言いきれない。
- ③ コンサート・ホールで演奏されるオーケストラに引けを取らないほどの、高度な音の忠実度をめざして開発されたハイ・ファイの音響装置の優秀性を実証するためには、音響メーカー側からすれば、いくつかのトリックを仕掛ける必要があった。
- ④ コンサート・ホールでなされた実験は、聴衆の錯覚を誘発する企みや条件はあったものの、人間の耳では、オリジナルの生演奏と録音された演奏とを聴き分けることができないほど、音響の複製技術の進歩には目を見張るものがある。



問4 傍線部B「誰でも、欲するままに、ショパンの夜想曲のあとに、マーラーの夜の交響曲を聴くことでしょう」とあるが、  
どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① われわれが自宅の居間で、ピアノ独奏曲から交響曲までのさまざまな音楽を「観賞」し、深い感銘を受けたり充実した体験をしたりできるのは、まずはレコードやCDの高度な忠実度を示す複製技術によるものだ、ということ。
- ② われわれが自宅の居間で、ピアノ独奏曲から交響曲までのさまざまな音楽を「観賞」し、深い感銘を受けたり充実した体験をしたりできるのは、レコードやCDの高度な忠実度を示す複製技術ばかりではない、ということ。
- ③ ピアノ独奏曲であろうが交響曲であろうが、レコードやCDで音楽を聴くとき、われわれは、それがオリジナルな演奏の再生であるとは意識せず、複製されたそのものを音楽として「観賞」している、ということ。
- ④ 自宅の居間でも弾くことが可能なピアノ独奏曲と、コンサート・ホールで演奏される交響曲は、もともと全く異なる環境で演奏されるはずのものであるにもかかわらず、われわれは、その違いをさして気にせず「観賞」している、ということ。

問5 傍線部C「貧弱な音のレコードから、宇宙的な聴体験を得たことになりました」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① たとえば音楽における芸術体験には、体験する対象がオリジナルであれ複製であれ、享受する側の純粋な感性がまずは必須である、ということ。
- ② たとえば音楽における芸術体験には、実際に音を「観賞」しているか単なる記憶の再現かにかかわりなく、享受する側の鋭敏な感性が要求される、ということ。
- ③ たとえば音楽における芸術体験の実質は、体験する対象がオリジナルか複製かという問題とはかかわりなく、享受する側の内面の美的意識によって決定される、ということ。
- ④ たとえば音楽における芸術体験の実質は、享受する側による、「観賞」を通して得た対象の世界観を豊かに広げていくオリジナルな感性にある、ということ。

問6 空欄 D に当てはまる一続きの文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① オリジナルが持つ美的価値は複製との比較において意味をもつ、とすることができるのです
- ② オリジナルが美的価値をもっている、とすることができなのです
- ③ オリジナルが絶対的な価値をもっている、とすることができないのです
- ④ オリジナルと複製は等価である、とすることが説明できないのです

問7 傍線部E「それは《もはや人間の生活ではない》のでしょうか」とあるが、ここにおける筆者の考えの具体的説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① 芸術としての複製の美的可能性を開いたテクノロジーの発展は、われわれの生活の全般にわたって大きな変化をもたらしているが、それは単なるまがいものではない、むしろ本当の「人間の生活」であると認めるべきだ。
- ② テクノロジーが「人間の生活」そのものを大きく変化させてきたからには、芸術としての複製の美的可能性は否みがたく、となれば、オリジナルとの違いが認められない複製も自立した芸術として認めざるをえないだろう。
- ③ テクノロジーの発展した現代のわれわれの「人間の生活」においては、芸術に対する複製の意味合いが大きく変化したことを根拠として、複製こそが逆説的にオリジナルの存在意義を保証していることを認めるべきだ。
- ④ 現代のわれわれが本来の「人間の生活」を再び取り戻すためには、オリジナルなものとの関係性を喪失し、テクノロジーが生み出す複製の上のみ成立している生活様式からの脱却を図らなければならない。

問8 本文の内容の説明として誤りを含んでいるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① われわれの経験は、一般的には直接体験よりも複製体験から始まっているが、オリジナルに比較すれば複製がその概念からして価値的に劣ることは認めつつも、簡単には首肯しきれない点がある。
- ② オリジナルと複製との聴き分けができないほど複製技術が進歩を遂げた現在、芸術体験の実質は享受する側の美的な意識にあり、体験する対象がオリジナルであるか複製であるかは問題ではない。
- ③ S P R E C O R D の音響から深い感銘を受け「聴覚的宇宙」という観念を得ることができるところからは、芸術体験は、体験する対象がオリジナルなものよりもむしろ貧弱な複製によってこそ可能である。
- ④ テクノロジーが可能にした複製による芸術は芸術とは言えないとか、オリジナルだけが芸術だとか言い張ることに意味はない。テクノロジーがかかわってきた新しい芸術の可能性を認めるべきだ。

II 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。



この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

(山岸俊男<sup>やまがししとしお</sup>『「しがらみ」を科学する』「空と社会」による)

- (注)
- 1 阿部謹也<sup>あべきんや</sup> 歴史学者。著書に「ハーメルンの笛吹き男」「世間」とは何か」などがある。
  - 2 お上<sup>お上</sup> 幕府や政府など政治をおこなっている機関。民衆の側から用いられる語で、多少の皮肉や反発が込められている。
  - 3 裸の王様の話<sup>裸の王様の話</sup> デンマークの作家、アンデルセンの童話。高い地位にある者が、まわりからおだてられるだけで何の批判も受けることがないために、本当の自分を見失っていることのたとえ。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語と同じ意味・用法のものとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) 大変な目|に合う

13

- ① 目|に物見せてくれよう。
- ② 今回の選挙では落選の憂き目|を見た。
- ③ 見た目|には無愛想だが、根は優しい男だ。
- ④ 旦那|さまは、さすがにお目|が高い。

(イ) 口|にしない

14

- ① ゆっくりやろう、まだ宵の口|だ。
- ② 口|が軽いのが仇|<sup>あだ</sup>となって人からは信用されない。
- ③ 水どころか、朝から何も口|にしていない。
- ④ 思わぬ座礁事故で船腹に口|があく。

(ウ) 手|もある

15

- ① その手|には乗らない。
- ② 猫の手|も借りたくらいの忙しさ。
- ③ うちの子は甘えん坊で、とても手|が掛かる。
- ④ 手|と手をつなぎ合わせる。

問2 次の段落は、本文中の【Ⅰ】～【Ⅳ】の後に続く、いずれかから抜き出したものである。挿入する箇所として最も適当なもの、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から公表することが出来ませんのでご了承承願します。

- ① 【Ⅰ】      ② 【Ⅱ】      ③ 【Ⅲ】      ④ 【Ⅳ】

問3 傍線部A「みんなが世間様から悪く思われないうちに行動することで、世の中の秩序が保たれていたってわけだ」とある

が、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

17

① 「世間」が、人々の間で起こっている単なるさまざまな出来事をさすに過ぎない言葉であるのに対し、「社会」には、契約とか法律とかに基づくさまざまな組織や制度が含意されており、人々は臨機応変にそのいずれかを生活の規範としていた。

② 「社会」は、明治維新後の啓蒙思想を背景とする翻訳語として生まれたものであり、それまでは、長きにわたって前近代の社会に根を張ってきた「世間」や「世の中」という不文律の言葉が、時の人々の「個人」としての生き方を陰に陽に支配していた。

③ 契約とか法律とかに基づく公的な組織や制度がまだ確立されていなかった前近代までは、「個人」と「社会」が対立するものとして考えられておらず、それでも秩序がそれなりに保たれていたのは、「世間」が人々の考えや行動を規制していたからだ。

④ 日本における前近代の社会では、「個人」と対立して人々の行動を外部から制約する「社会」という概念はそもそも必要とされておらず、人々は自らの欲望を犠牲にしてまでも、他者の迷惑を常に優先させて行動しようとする生活の知恵が支配的だった。

問4 傍線部B「こうした集団リンチ殺人」とあるが、この事態について筆者はどう考えているか。その説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① 殺人を犯してはいけないという、人間としての明確な倫理観を欠いているからこそ起きた事態であり、集団の統率者が有している強大な支配力が、成員の行動様式を常に規制するものとして働いている。
- ② 「世間」という共同体においては、「個人」の自由に対する拘束としての側面が際立っており、集団リンチの場面でも、実際には殺人を犯すつもりが全くなくとも、成り行き次第では起こり得る事態である。
- ③ 集団における、とりわけ弱者としての成員が、まわりの空気や期待にそれとなく応えようとした結果起きた事態であり、それは集団の内部における自らの立ち位置にしがみつこうとするいじまさを示している。
- ④ 集団の統率者に対して、成員のひとりひとりがやみくもに盲従するために起きた事態であり、「個人」の自由を束縛する「世間」の性格の側面をとらえる上では格好の事例である。

問5 傍線部C「「世間」の上に「社会」を作ってきたのが近代の歴史だと考えることができる」とあるが、こうして作られた「社会」はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 集団内における成員ひとりひとりの、行動様式の是非を判断する際に準拠すべき法律や規範を、全体の合意のもとに作って、それを遵守する社会。
- ② 集団内における成員ひとりひとりの行動規範について、その方向性は、統率者をはじめとする集団の上位の者があらかじめ決定してくれる社会。
- ③ 集団内においては、成員ひとりひとりが、他者の考えや期待に合わせて行動することが肝要で、それが明確でないならば、「空気」を押し量らねばならない社会。
- ④ 倫理上の規範意識が、集団を支える成員のひとりひとりにとって微妙に異なっているため、全体的なコンセンサスがなかなか形成できない社会。

問6 傍線部D「家族を中心とした狭い社会」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① たとえば家族のような小規模な集団では、内部における決まりごとをわざわざ成文化しなくともよい阿吽あうんの呼吸が働いている。だから、ごく短い話し合いでも多くのことが解決可能で、大規模な集団に比べれば自由の度合いが高い。
- ② たとえば家族のような小規模な集団であるからこそ、成員は強い絆きずなで結びついているといえる。だから、大規模な集団でうまく行動できない者がいたとしても、かつての成員の再加入をたやすく許容する懐の深さを有している。
- ③ たとえば家族のような小規模な集団であるからこそ、成員のひとりひとりがお互いの考えをある程度は共有し合っている。それゆえ、周囲の反応を顧慮せずともお互いの行動について了解していることが多いといえる。
- ④ たとえば家族のような小規模な集団であるからこそ、成員ひとりひとりの関係が濃密であり、お互いのことは以心伝心で深く理解できている。これは一般的に人間関係の円滑さを考える上で有効である。

問7 傍線部E「世間をうまく生きられないなら、社会で生きるようにすればいい」とあるが、ここにおける筆者の主張の説明

として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

① 人間は単独ではなく集団で生きてきた生きものであるから、お互いの考えに配慮し、その集団に許容されない状況ができるだけ回避して行動する性格を持っている。が、生きていくために重要なこの性質が、かえって自らを束縛することにもつながっている。

② 俗世間を捨てて隠遁するという生き方は、かつては少なからずあったが、現在はそのような生き方は多く人に首肯されない。しかし、個人がどのように生きるかの根拠はすべからず尊重されるべきであり、それを保証する決定事項があつてしかるべきである。

③ 他者が自分をどう思っているかを気にかける心的負担と、逆に、自分が他者をどのくらい理解できているかと思悩む負担は、必ずしも一致しない。この集団の成員であるからこそ生じる心理の葛藤を軽減させるほどの、当面の方策を早急に模索すべきだ。

④ 複雑になる一方の集団の中で、たとえ他者に合わせて対応できない成員がいたとしても、その原因を個人の努力の問題であると決めつけるのは正しいとはいえない。個人の自由を確保するためには、これまでの共同体意識を超えた認識が必要である。



III

次の文章は、昭和四年に発表された、物理学者寺田寅彦てらだ とらひこの随筆である。これを読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

(寺田寅彦『怪異考／化物の進化——寺田寅彦随筆選集』「化物の進化」による)

(注) 1 作業仮説⇨理論的整合性において、仮説としての十分な資格は備えていないが、とりあえず研究や実験を進める上で有効な手段として立てられた仮説。

2 今年のグラスゴウの科学者の大会でシンプソンとウイルソンと二人の学者が大議論をやった⇨ともにイギリス人である、気象学者のシンプソンと物理学者のウイルソンの二人が、一九二八年、グラスゴウ大学で行われた雷の研究の発表において、全く正反対の見解を提示して大論争を展開したこと。

- 3 プロトーンⅡ素粒子の一つである、陽子。
- 4 八頭の大蛇Ⅱ八つの頭と八つの尾を持つ大蛇。ヤマタノオロチ。
- 5 ヒドラのお化けⅡギリシア神話で、後出の英雄ヘラクレスに退治された多頭の蛇。
- 6 ヴィシヌⅡヒンドゥー教の三神の一つ。
- 7 ポセイドンⅡギリシア神話の海神。
- 8 ガニミード神話Ⅱギリシア神話のガニメデス。永遠の若さと不死を与えられた美少年で、鷲の姿になったゼウス神にさらわれ、神々への酒酌み役にされた。
- 9 ガンダラⅡ現在のアフガニスタン東部からパキスタン西北部にあった古代王国。
- 10 ガルダⅡインド神話に現れる、大鷲の姿をした怪鳥。ヴィシヌ神の乗り物。
- 11 ジャヴァのある魔神Ⅱインドネシアのジャワ島の魔神ガンダルワは、日本の天狗によく似た容貌を持つ。
- 12 大江山の酒顛童子Ⅱ丹波たんぱと丹後たんごの境にある大江山に住んでいたという鬼神。後出の源頼光によって退治された。
- 13 ユリシースのサイクロプス退治の話Ⅱユリシースは、ホメロス（ホーマー）の叙事詩『オデュッセイア』に登場する英雄オデュッセウスの英語読み。ギリシア神話に登場する、一つ目の人食い巨人であるサイクロプスを退治した。
- 14 一千一夜物語Ⅱアラビア・ペルシャ・インドなどの民話約二五〇を集めた説話集。アラビアンナイト。
- 15 友人のNⅡ本文の直前の中略箇所、「化物の創作家」として登場している。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) 一笑に附すれば

22

- ① みだりに笑いものにすれば
- ② いつもの笑いものにすれば
- ③ さも蔑んで笑ってやれば
- ④ 問題にせず笑ってすませれば

(イ) 無用の変痴奇論

23

- ① いらぬお節介ともいえるもの言い
- ② 必要のない、どことなく変わったもの言い
- ③ あってはならない、奇天烈きてちつなもの言い
- ④ 役立たずの、違和感をもたらすもの言い

(ウ) 正体と見たは枯柳

24

- ① 実体を確かめてみると、思いのほか平凡なものである、ということ
- ② 平凡なものこそが、思いのほか実体をありありと伝えている、ということ
- ③ 平凡なものを実き詰めると、実体はおのずから現れてくる、ということ
- ④ 実体を実き詰めると、平凡なものも非凡なものになる、ということ

問2 空欄 a ) d に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- |   |      |      |      |      |
|---|------|------|------|------|
| ① | a 委嘱 | b 教導 | c 抑止 | d 俗流 |
| ② | a 帰属 | b 教唆 | c 阻止 | d 卑俗 |
| ③ | a 帰納 | b 示唆 | c 阻害 | d 皮相 |
| ④ | a 止揚 | b 指示 | c 妨害 | d 素人 |

問3 傍線部A「化物もやはり人間と自然の接触から生れた正嫡子であって」とあるが、その具体的な説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 自然界における不思議さを感じ得る力が科学的思考には不可欠であり、いくら合理的な説明ができないからといって、化物は、一刀両断に切り捨てるべきではなく、むしろ科学の分野と可逆的なベクトルを持った相互補完の関係にある。
- ② 不可思議な現象を全能の神に結びつけて表象したり、時と場所を越えて各民族間の交渉を探る手掛かりともなりうる化物は、人間の文化の進歩の歴史において無視できないからには、常に一目を置くといふ配慮がなければならぬ。
- ③ 科学が進歩すればするほど、科学の成果が過大評価され、相対的に化物に対する評価は低下したけれども、もともと科学と化物は区別して認識すべきものではなく、ただ昔の化物が名前と姿を変えただけのことである。
- ④ かつては伝説や新作を織り交ぜてさまざまな化物の話をしてくれる語り部がいて、子どもたちと化物との交流の仲立ちをしてくれたのだが、いまはそのシステムが崩れ、滅多に現れてはくれない化物は、希少なだけにその価値は高まりつつある。



問4 傍線部B「ともかくも「ゾツとする事」を知らないような豪傑が、仮に科学者になったとしたら、先ずあまりたいした

仕事は出来そうにも思われぬ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

① 自然の不思議さに対してなんの興味も憧憬も抱かず、また、宇宙に満ちあふれる怪異にいささかも戦慄する心がないならば、化物を捜し出す科学の目的が達成されないから。

② いわゆる科学教育があまねく広まったいま、科学者は化物の正体を少しずつ解き明かしてきたが、それでも説明しきれないほどの化物の多さに手を焼いているにすぎないから。

③ 科学の進歩と化物の進歩は本来、並行するものとして捉えられるべきである限りは、科学者たる人間ならば、せめて一度くらいは非科学的領域にも足を踏み込むべきだから。

④ 化物などという表象を追究することは、あくまでも過渡的なものにすぎないにせよ、だからと言って、不可思議や怪異の正体の解明を意図的に避ける態度は見苦しいから。

問5

空欄

X

に当てはまる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

28

① これこそ「化物に対する迷信」でなくて何であろう

② これこそ「科学に対する迷信」でなくて何であろう

③ このため「化物に対する迷信」は事実ではなくなってしまった

④ このため「科学に対する迷信」は事実ではなくなってしまった

問6 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

29

① 人間の文化の進歩の過程において生み出された化物が占める位置は最も重要であって、原始の人類にせよ二十世紀の科学者にせよ、その興味の向かう先には必ず化物が存在しており、神秘の領域に踏み込むべきことが、科学者にとってはいわば通過儀礼となっている。

② 少年時代、教育の現場で与えられた中等教科書のせいで、せっかく胚胎しはじめた筆者の科学に向かう探求心は、ここごとく摘み採られそうな状況にはあったが、郷里の長老が語り聞かせてくれた化物の話によって、かろうじて根絶やしにされずに済んだものである。

③ 同じ日本においても異なるそれぞれの時代で比較してみたり、さらには日本と外国とを比較してみたりしてわかるとおり、人間の文化史の中で化物が存在する意味は決して無視はできず、それぞれの民族が文化として有する化物には、宗教と科学と芸術が三位一体となった完璧な形式が見て取れる。

④ 科学の本質は、科学者・非科学者の別なく、自然界の不思議さへの憧憬が促されることによってこそ初めて発見されるものであり、ともすれば非科学的であるといえるかもしれない怪異に畏怖する心性を涵養することなしには、ほんとうの科学教育は切り拓かれない。

問7 本文の筆者、寺田寅彦と深い関わりのある文学者として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

① 正岡子規

② 夏目漱石

③ 芥川龍之介

④ 菊池寛



